

北陸センター所長賞

作品名：

「社会で必要とされる存在になるには」



富山国際大学附属高等学校

2年 山辺 雄翔 さん

▽受賞のコメント

現在も日々ボランティア活動をしていて、その中で学び、気づき、新しい価値観などを知り、そうしたことを社会発信していきたいと思っています。今回のエッセイを通して、書くことで様々なことを整理することができました。将来のビジョンを逆算しながら、今何をしなければいけないのかを考えています。またこの高校はいろいろ何でもできるところに魅力を感じ、その中でいろいろさせてもらっている。大学生との交流なども通して、第三者の目線からの意見などに刺激を受けています。

▽作品本文

自分はユネスコスクールの生徒であるとともに、ユネスコ部員としてさまざまな分野の活動に参加してきました。国際高校には生徒の知識向上を目的とした国際理解講座という専門家の方による講座が定期的開催されています。これまでに貧困や医療支援といった国際的な問題などを受講してきました。ユネスコ部員としての活動で特に印象深いものが、1年生時に文部科学省後援のESD学び合い交流会に参加したことです。この交流会では社日本全体で問題となっている過疎について考えるもので、自分たちの住んでいる地域の過疎に関わる問題を調査し、他の地域の生徒を前にプレゼンテーションを行うというものでした。関西地域を中心に京都、大阪、奈良、兵庫の中学生や高校生に富山の過疎問題を紹介し互いに深く共有し合いました。さらに中国の学生も来られ日本国内だけでなく海外の方々に富山を知っていただく機会にもなりました。この学び合い交流会は2日間に及ぶもので、滞在先も兵庫県内で過疎化が深刻になっている地域でした。自分の地元と他県を比較して考えることで共通点や改善点といったさまざまな発見がありました。さらに他県の問題を学ぶだけではなく、学生との仲を深められたことも印象的です、この活動を通して『ESD』とは何なのかといった持続可能な教育の本質から、自分たちが活動で実践していく中で重要な点まで学ぶことができました。題目は過疎化についてでしたが、それぞれが同じ目的に向かって探求し、共有し合うことは新たな発見を得られ理解をより深めることができるということを強く実感しました。

そして、これらの学びを実行に移そうと考え、在宅学習期間の中で今自分には何ができるのかと考えた際に他校との繋りを大切に、多くの学生と協力し合うことで社会に大きく影響を与えられるものを形成していかなければならないと思い全国プロジェクトを立ち上げました。自分たちユネスコ部員が理想とするSDGs問題解決の具体的なボランティア活動を大学に掲示し、大学側とそのボランティア活動と一緒にやるというものです。他校との交流を図るとともに共同のプロジェクトを立ち上げることで、新型コロナウイルスの影響で直接出向いての活動はできませんが、それぞれの地域で同じ活動を行いオンラインでの現状報告や活動報告を進めることで富山県内のみでの活動ではなく全国という視野に広めて、より活動が社会に浸透して影響力の大きいものにすることが目的です。そして在宅学習期間から夏季休暇の間には活動内容を具体化し関東や中国地方の大学生を中心にオンラインミーティングを行いました。秋には実際に活動を始める予定で、12月に日本全国のユネスコ部のある大学で開催される全国サミットへの参加も決定しました。

ユネスコスクールに通えているからこそこれだけの学びを得られて、あらゆる機会に恵まれていると思います。今後社会で活躍していく上で、現在自分が取り組んでいる活動や活動を通して得られた考えは最も重要なものの一つだと思います。なぜなら、この自分から積極的にさまざまな機会に身を置くといった積極性や学んだことをより深く根本的に探究するといった探求心は必ず必要になってくると思うからです。今の自分の活動は本当に社会のために役立てることができるのか、ただ自分の能力を向上させるためだけなのではないかと自問自答することがありました。しかし、焦点を自分自身に当てるだけでなく社会に役立てられるにはどうすべきなのかを逆算して考えることで自分の存在を確立することに意識しました。今後もユネスコ部員、ユネスコスクールの生徒として幅広く活動し、NPO法人設立を目標に情報を発信できる存在になりたいと思っています。